

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 31日

事業所名 放課後等デイサービス やさしさいっぱい中央

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		学習室や休憩室など目的や活動に応じた空間を確保している。	構成化された環境設定に取り組んでいる。目的や活動内容に応じてスペース確保・パーテーションの活用等に努めている。
	2	職員の配置数は適切である	100%		人員配置基準に沿った職員の配置を行なっている。	今後も適切な職員配置を行ない、非常勤を配置する場合でも職員の質の向上も図っていききたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	57%	43%	つまづき防止ガードの装着等は行なっている。	ほぼバリアフリーではあるが玄関入り口の僅かな段差にはつまづきガードを装着して配慮を行なっている。施設の構造上、共有部分等は改善が難しい所もある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%		朝礼時に課題・目標・評価・振り返り等を行ない業務改善を進めている。	日々の振り返りを行ない改善点や継続点を検討し目標につなげるようしている。毎日朝礼時に意見交換を行ない、参加できない非常勤職員にも記録等で情報共有を図っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		アンケートを継続的に実施し保護者の意見等を業務改善につなげている。	保護者様からの評価や意見等を把握し、職員間で共有し業務改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%		実施。	ホームページにて公開。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	72%	28%		外部評価については、現在実施を検討中。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		研修・ズーム等、定期的に参加している。	研修・講演会・毎月オンライン研修に参加している。今後も積極的に参加していき、支援の向上に努めていく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		児童・保護者の要望・意向を確認の上作成している。	アセスメントによる、保護者様のニーズ、児童が必要とする療育を目標に設定できる個別支援計画の作成を目指している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%		保護者様からの発達検査結果や学校からの情報等、多面的な情報を収集している。	定期的に多面的な情報把握、標準化されたアセスメントツールに基づいた支援計画作成を行ないより良い療育に繋げている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%		会議等で様々な意見を出し合いプログラム立案を行なっている。	会議等で職員間で意見交換しながら、児童個々の発達や特性を考え、個別・集団活動プログラム作成を行なっている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		職員間で意見交換を行ないネット検索等で固定化しない様している。	児童個々の発達や特性に合わせた様々な方面での(運動・料理・工作等)個別・集団でのパラエティーにとんだ活動を取り入れている。今年度も、引き続き運動療育として体操教室の取り組みを行なう。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%		サービス利用時間に応じた企画・課題を設定し児童が達成できるよう支援している。	平日・休日・長期休暇等に応じて楽しく学べる活動の課題設定を行ない外出や公共施設利用など興味・関心に合わせたプログラムの確立を目指した支援を行なっている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%		発達・特性に合わせた個別活動と集団活動を計画している。	今後も個人の状況(学年・発達段階)を考慮し個別活動と集団活動を適宜に組み合わせ充実させていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		毎日の朝礼で、当日の支援内容等を確認している。	支援・活動の中心になる職員が事前に企画書作成を行ない、他の職員に活動の流れや説明、役割分担等を確認し情報共有している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		支援終了後は、送迎等で勤務時間内に行えない為、翌日の朝礼にて必ず行なっている。	現在は翌日の朝礼にて、しっかり時間を取り、前日の支援振り返り・児童の気付き等は必ず職員間で確認し合い、反省点・改善点を共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		日々、個別支援記録、業務日誌の記録を徹底し改善に繋げる。	記録を残すに留まらず、職員各々が確認をして記録を活用し支援の検証・向上に努める。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		半年に1回モニタリングを実施し計画の見直しを行なっている。	定期的にモニタリングを実施し支援結果を検証したうえで適宜に個別支援計画の見直しを行って行く。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%		ガイドラインを確認し支援をしている。	総則を把握したうえで、活動プログラムの立案、支援を構築していく。	
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		児童発達支援管理責任者が参画している。	基本的には児童発達支援管理責任者だが、利用児の支援に深く関わっている職員も参画している。	
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		週末に翌週の時間割表を確認・コピーを取りファイルしている。	連絡調整がスムーズに行なえるよう、今後も学校の担任や関係機関等との連携を図っていききたい。下校時間の確認や送迎遅延時は、予め電話で対応を行なっている。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	43%	57%		対象者なし 現時点では医療ケアが必要な子どもの受け入れは困難な状況であるため、体制等について検討していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	86%	14%	児童相談支援事業所等との情報共有を図っている。	相談支援員や保護者からの情報が主となっているが、就学前の保育園等との情報交換に努めていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	43%	57%		対象者なし 各関係機関等と情報交換を行ない、スムーズに移行できるように情報提供を行なっていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%		研修等、積極的に参加している。	専門機関の利用児について、定期的に事業所での様子を見学に来ていただき連携し、助言をいただいている。 今後も、研修等にも積極的に参加していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	72%	28%	近隣の公園や児童館での活動を取り入れている。	近隣の公園や児童館等で地域の子供達と一緒に遊ぶ機会があり、今後は目標を立てた交流活動を計画したい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	43%	57%		機会があれば積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		送迎の際や連絡帳やSNSで日々の活動や児童の状況を伝えている。	今後も送迎時だけでは伝えきれない内容等は、連絡帳・インスタグラム・LINEでのツールを用いて状況を共通理解を図っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	43%	57%	ペアレント・トレーニングの研修があれば、積極的に参加する。	ペアレント・トレーニング(好ましい行動・好ましくない行動・許しがたい行動)の実践をしていく上で、対応方法や知識の向上に努めていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		契約書に記載し、確認していただきながら丁寧に説明を行なっている。	契約時、不明な点があればその都度、丁寧に説明を行なっている。
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		普段から保護者様とのコミュニケーションを図り、相談しやすい対応している。	保護者様からの悩み等に対する相談があれば、適切な回答を事業者内で模索した上で慎重に助言と支援を行なっている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		100%		現在、父母の会の活動の運営は考えていないが、保護者のニーズがあれば検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		迅速かつ適切に苦情対応にあっている。	苦情受付窓口・解決担当を重要事項説明書に記載し、契約時に保護者様に説明する。苦情があった場合には、迅速かつ適切に対応するよう努める。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		月の行事予定表の配布、SNSにて活動の様子を掲示している。	毎月、行事予定表を配布。 外出活動など行なう場合は別紙にて詳細をお知らせプリントとして配布している。 インスタグラムにて写真掲示。
	35	個人情報に十分注意している	100%		不要になった個人情報がかつた書類はシュレッダーを使用している	個人情報に記載された書類は鍵付きの書棚に保管している。情報交換を行なう場合にはイニシャルを用いる等、今後も取り扱いには十分注意していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		連絡帳に記入し送迎時にもその日の様子等の情報伝達を行っている。	保護者様には、連絡帳や送迎時に直接口頭で行ない、十分に行なえなかった場合はLINEにて情報伝達している。 児童には、分かりやすい話し言葉や文面を意識して、意思疎通の配慮を行なっている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	14%	86%		地域交流会に参加したり、地域の方を行事に招待したりして、交流を図っていきたい。 今後、地域でのボランティア活動があれば参加したい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%		各マニュアルは策定している。	利用契約時に対応マニュアルの提示・周知を図っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		定期的に避難訓練を実施している。	現実に沿った災害を想定し、避難実施計画書作成し実施していく。 実際の避難場所まで誘導ロープを使い避難し、災害に対応出来る訓練を行なう。避難グッズを常備している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		社内研修・オンライン研修等、積極的に参加している。	今後も、虐待防止に関する研修会等、積極的に参加を行い適切な対応につなげていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	86%	14%	現在、身体拘束の必要性のある児童はいないが、身体拘束マニュアルを策定している。 契約時、説明を行なった上で同意書をとっている。	身体拘束に関しては児童の生命の危機等、緊急を要する場合は、やむを得ないという事は保護者や職員間では共通認識としている。 児童の心身の状況に応じて必要であれば計画に記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%		保護者の申告に基づいて対応を行なう。	契約時にアレルギーの有無を確認し、保護者から申告があった場合には、おやつ提供等は注意しながら適切な対応を行なう。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		ヒヤリハット箱を設置。	危険な事例に気付いたら直ぐに職員が投稿し、定期的なミーティングで全職員周知・未然に防げる方法の話し合いを行い、再発防止に努めている。	